



# 春野中だより

〈教育理念〉 自他共愛  
〈学校教育目標〉・明るく・豊かに・たくましく

令和6年度 第7号

令和6年11月1日(金)発行

さいたま市立春野中学校

〒337-0002 見沼区春野 2-2-1

TEL 682-3951 FAX 682-3952

## 「何も咲かない寒い日は 下へ下へと根を伸ばせ」

校長 永谷 和俊

つい最近まで半袖でも過ごせていましたが、急に寒くなってきました。日が沈むのも早くなり、一気に季節が冬へ向かっているように感じています。

さて、新人戦市大会では、多くの部活動で素晴らしい成果をあげました。団体戦では、野球、サッカー、女子ソフトテニス、男子バスケット、女子柔道、女子卓球がベスト8以上の成績をあげました。個人戦でも女子ソフトテニスの優勝をはじめ、多くの競技で県大会出場を果たしています。また、科学部の市科学振興展での最優秀賞、英語弁論・暗唱大会では中央大会や県大会への出場など、文武両面で素晴らしい活躍が見られました。駅伝も校長 Diaryでお伝えした通りです。そして、先日行われた合唱コンクールでも、仲間を信じてつくり上げた、すてきなハーモニーと魂の歌声を響かせ、様々な感動をいただくものとなりました。よき伝統を築き上げていることを実感しております。

◇

さて、大きな行事も終わり、学校では平常授業と日常生活に戻りました。部活動も新人戦後は小さな大会があるものの、6月の最後の大会まで少しのんびりとした時間が続きます。この時期の過ごし方が、後々大きな差を生むのではないかと思います。

そこで思い出すのが、シドニーオリンピック金メダリスト、高橋尚子さんの恩師の「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」という言葉です。これは、困難な時期にこそ内面的な成長や準備を怠らず、地道に努力を続けることの重要性を示しています。成果がなくても、内面的な成長や知識・技術の習得が後の大きな成果につながります。

話は逸れますが、私は園芸が大好きで、庭の畑で作物を育て、調理して食べるのが趣味のひとつです。様々な野菜を育ててきましたが、ミニトマトが特に楽しく、3本仕立てにして無駄なわき目を取り、菊の三本仕立てのような本格的な見栄えも目指しています。

栽培では、水やりは重要で水切れは厳禁です。しかし、根がよく伸びるのは土が乾いて水が欲しくなった時です。なので、土が乾いた時にたっぷり水をあげます。中耕といって脇を耕して空気を通したり、少し根を切ったりすることで、根はさらに強く元気になります。肥料では三要素を中心に用途を意識しながら、適時に適量与えることで効果的に育ちます。例えば窒素を与えすぎると葉が巻き、足りないとき黄色くなります。

これまで、失敗も多々ありますが、原因から学び再発防止を考えるのも楽しいです。最近栽培で気づいたことがあります。最初は食べる部分の実や葉に注目していましたが、次第に茎や葉、根っこ、そして土づくりに関心が移っていることです。畑の空いているところに穴を掘り、卵の殻や野菜の皮を砕いて土に混ぜると、真夏では、数日でふかふかの土ができます。ただし、最近は土の温度も下がり発酵が遅くなるため、生ごみのたい肥化は控えています。栽培より土づくりが趣味になっていると思う時もあります。

人の筋肉や骨の成長も根っこに似ています。筋肉を動かして筋に小さな破損、ダメージを与えて治るときに筋肉が成長します。骨も1歩1歩の刺激で目に見えないような細かいひびが入り、それが回復した時に、強い骨が形成されていきます。また、人も栽培と同じで、本人が望んでいない時の水や肥料を与えすぎは、生育の妨げになります。

大人の立場では、適切な土づくりと肥料・水やり。成長中の生徒のみなさんは、小さなダメージと回復を繰り返していく意識。成長への渇きは、成長したい欲です。困難な受験期の3年生、1・2年生も目標を失いかけないよう改めて、次の言葉を贈ります。

「何も咲かない寒い日は 下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く」